

地理學評論 第三卷第一號

大正十六年一月一日發行

日本の地理區

田中啓爾

緒言

日本を地理的單元(Geographical Units)によつて區別して考察することは科學的地誌(Wissenschaftliche Landeskunde)の研究に缺くべからざるものである。從來用ゐられて居る樺太・北海道本島・奥羽地方・關東地方・中部地方・中國地方・四國地方・九州地方・臺灣地方等に區分するは相當に意義ある區分なれども更に之に修正を加へ且つ之を細分して見たいと思つた。余は數年來幾多の腹案を作つて講演や講義に試みたるも未だ會心の案に到達すること能はざるが、茲に敢てその一案を提出して批正を仰ぎ今後の研究の刺激にしたいと思ふ。曩きに麥谷龍次郎氏は「行政區劃」について論ぜられ(本誌大正十五年九月)、今また下村理學士が十二月號から「地形區」に就て論ぜらるることになつたのは學界の爲め

日本の地理區

地理學評論

慶賀すべきことである(地理教育大正十五年八月號拙稿地理學的考察参照)。

先づ地理區(地理的地域)(Geographical Regions: Les Régions géographiques)に就て考へて見たい。能く自然區(自然的地域 Natural Regions: Naturgebiete) 自然的區劃(Natural Divisions: Naturliche Eintheilung)自然的單元(Natural Units, Naturliche Einheiten)の語が使用されるが、その「自然」といふ意味は自然地理的であるか、或は人文地理的であるか、或は自然人文の綜合的(調和的)の意味であるか問題である。之は英米獨佛等の地理學者の使用せる例によつて見れば地形區(地形的地域 Physiographic Provinces)を指すが普通である。外に氣候區と植物帶との二種の單元がある。以上は自然地理的の單元である。然るに故ヴィダ・ツラ・ブラシェ(Vidal de la Blache)教授の人文地理的見地より決定したフランスの地理的單元(註一)、フォセット(O. B. Fossett)氏の政治地理的見地より決定した英國の地理的單元の如きものがある(註二)。何れも各地方の政治的經濟的核心を中心とした單元と見るべきものである。麥谷龍次郎氏の本誌に紹介されたロシアの經濟區劃はその政治的實施案の一であらう。之れは地理的行政區劃であり、又經濟區(Economic Regions)ともいはる。同じく經濟區と稱せられて經濟地帯に分析して各種の生産、不生産の地帯に分ち小麥地帯・工業地帯・漁業地帯の如く呼ぶ場合もある。麥谷氏の日本の地理的區劃は同感であるが之は人文的と見たい。以上は人文地理的單元である。今一つは自然(地形・氣候・植物等)と人文との綜合的(調和的)標準により地理的景觀の最も特色ある

地域に區分することである。この場合に於ける「自然」の語は地理的に考慮される人爲的の行政區劃に對する自然區と多少意味である。故ハーバートン(Herbertson)教授及アンステッド(J. E. Dunsen)教授の地理的單元はこれである。アンステッド教授の“A synthetic method of determining Geographical Regions”(Geogr. Journ. Royal G. S. Sept. 1916)には詳かに論ぜられて居る。ミス(Russel Smith)教授の北米の自然的區劃は經濟區として企てたのであるが一種の綜合的の試みと見られる(註三)。その自然と人文の地域名の混淆を非難するものもあるが、この區劃法に共鳴する地理學者も相當にある。辻村太郎助教授の本誌に紹介されたキーン(E. Kuhn)氏のアルヘンチナの經濟學の三區、グリニス・テラー(J. G. Griffith Taylor)教授のオーストラリアの區分(註四)の如きはこの綜合的單元の傾向を持つて居ると思ふ。アンステッド(J. E. Dunsen)博士のイペリア半島・イギリス島の區分の如き(註五)は此綜合的實際案の一つである。或地域内の單元を決定するに、或地區は地形を主とし、或地區は氣候を主とし、或地區は植物帶を主とし、或地區は人文を主なる要素として自然區を決定するのである。但し何れの場合に於ても自然と人文との綜合的の考慮をせぬことはなく、單に優越せる條件により決定して地域名としたに過ぎぬ。

余はこの綜合的のものを特に單に地理的單元(或は綜合地理的單元)と稱し、他の地形的單元・氣候的單元等の純自然地理的單元と經濟地理的單元・政治地理的單元等の純人文地理的單元と並んで一つの

日本の地理區

三

地理學評議

四

自然的單元と認めたいのである。(地形區・氣候區・自然地理區・經濟區・政治地理區・人文地理區・地理區と稱して)。

余がこの方針によりて試みたる方法は一の基圖に地形區・氣候區・植物帶・生産地帶・交通運輸地帶・商業圏・聚落分布區・人口密度區等を重ねて記入し、その綜合的結果を考へたのであるが、各々に何程の價値を與へるかが問題で未だ好結果を得られない。自然人文諸地區の境が山麓線によるものと山頂線によるものとある場合の如きその取捨に迷はされることが少くない。更に山地を斜面に分つことによつて其缺點を補ふことができるが、廣さの釣合上かく細分することを許されぬ場合がある。

次に單元決定に至つた條件を書く但し素描であつて未だ數值的の標準を示し得ないのは遺憾である(一)地形區が決定の主要なる要素となつた。大勢はそれに依つて決つた。それは地形か如何に人文に關係するかを雄辯に語るものである。普通に認められて居る英米の單元並にブラウン(G. Braun)教授及ウーレン(W. W. Ullrich)教授のドイツに於ける、ブランシャード(B. Blanchard)教授及マルトンス(Marionne)教授のフランスに於ける地方誌の單元として用ゐたものの如きは皆地形的單元其ものである點から考へても地形は地理的に重要性を持つて居る(註六・七・八・九・一〇)。殊に新開植民地に於てはこの感を深くする。

(二)但し地形といふは地體構造や地質よりも現在の地形そのものに重きを置くことにした。現在の

地形にても人文との關係の程度を考慮して所屬をきめた。例へば長崎三角地域が外帯に屬することは矢部長克教授によつて闡明された顯著な事實であるが遺憾ながら地理的景觀から見て佐賀關（臼杵を改め）八代線以北を西南日本の内帯に從屬せしめ且つ之を阿蘇火山帶と肥前半島と北九州とに分つた如き、又中部地方を内外帯に別つに先ち中央高地の存在を認めた如きそれである。又中央構造線の北に存在する和泉山脈・諫鶴羽山地・讃岐山脈は瀬戸内の景觀よりも外帯地方の景觀の色彩を多分に持つて居るやうに思ふ。東西の走向を持つ水成岩層、東西の山頂線を持つ一連の山脈、豊後水道及神島海峽と鳴門紀淡海峽の類似、平野及海に臨める宇治山田・西條・佐田岬・佐賀關・八代に於ける斷層崖と和泉山脈・讃岐山脈の北麓斷層崖との類似、二地溝帶を含むリアス式の海岸等の特色之に伴ふ人文景觀等より考へてこの地域を外帯に屬するも一案と思惟せざるに非ざれども、之は漸移地帶としてこのまま保留した。

(三)山地に於ける海岸平野・盆地及河谷、低地に於ける山地の小なるものは特別に區別せず、従つて地域名か地形的の語である場合には名實が完全に一致しないこともある。

(四)島は單元として獨立性を認める場合が多いが、本州島・四國・九州は極めて接近し且つ酷似せる景觀を持つて居るので連続して單元をきつた。北海道・樺太二島は獨立せしめてはあるが(殊に津輕海峽は生物帶及文化景に於て境界として截然たる意義の存するは勿論であるが)大體は東北日本の延長

にてその副單元と見るべきである。即ち北海道の半島部は東北地方の繼續であり、其の外帯は遙かに西南日本の外帯と對應して居る。越後地方を含める中部地方に關東地方を加へた廣義の中部地方を認める時、その中部の稱は稍東に偏するが如きも、北海道を九州と對應して認むればその位置の中部たるも首肯がてき、且つ東西に延長せる西南日本と東北に連互せる東北日本の連結部、方向轉換部としての意義深きを覺ゆ。

(五)半島に獨立性を認めたのは肥前半島、北海道西部半島の如きであるが、殊に前者は肢節的特性に相當に重きを置いた。

(六)氣候區は地形區に次いで重要視した。これ亦人文景を支配することの大なるを示すものである。如何なる標準で歐洲を區分する學者も地中海地方を二單元と認める僻のあるはその特異の氣候に魅せらるゝからである。余は次の十四の氣候區を使つた。それは即ち樺太區・北海道東部區・北海道西部區・奥羽東部區・奥羽西部區・東海區・中央高地區・北陸及山陰區・瀬戸内區・北九州區・南海及南九州區・琉球區・臺灣東北區・臺灣西南區で各地の氣溫・降水量・溫度の三要素の組合せの様式によつて區分した結果である。更に小區分も試みたが、大體從來の氣象臺の使用し來つた氣象區に類似した廣さの區域にした。それが地形區と一致して居るものは問題がない。例へば西南日本の外帯の如き然り。フランスはこの點に於て完全に恵まれて居る。

(七)然るに地形は同一にして氣候の異なる場合は氣候區に依つて更に之を分つた。中國高原を山陰山陽に分つた理由の一はその例である。地形區と氣候區との互の讓歩によつて定められたものは東海地方と北陸地方とである。氣候區としては尙後背斜面を要求するに反し、地形區としては各種異なる地質の丘陵地を含まざる第四紀層の狭い海岸平野がよりよく單純性を持つて居る。それで人文景も考慮して修飾したものがこの境界線である。

(八)氣候區と地形區とその衝突の甚しきに過ぐるものは地形區に従つた。例へば臺灣の如き氣候に顯著な東北・西南の相異を割愛して地形の東西の差異に従ふことにした。但茶と甘蔗との生産地帯に係する西部平野のみを氣候によりて二分することによつてその調和を發見することができたのは前例と同じである。

(九)奥羽地方にては地形上地質上の境界は東に偏して居る。氣候及人文より見れば中央の分水界を境とするを適當とす。この場合は中央分水山地を地理的單元として獨立せしめ、その東西の兩山麓線を以つて東部西部の地理區を分ち、氣候區及諸種の人文區との調和を保たしめた。

(一〇)地質的に同一なるものは一單元と認めて居るのは同一の地形になる場合が多い上に、土壤及鑛産が同一であるからである。但小面積のものは無論獨立を認めない。それは地質的分布は餘りに複雑であるから一々之に適應することを許されないからである。

日本の地理區

七

地理學評論

八

(一一)位置は人文地理上考慮を拂つた。中部地方の單元殊に越後地方の單元決定の如きその感を深くした。又文化地帯及非文化地帯は位置に負ふところが多い。東海地方・瀬戸内地方・北九州地方は文化を受け入れる好位置にある。

(一二)地域の名稱が自然地理的に偏して居るが如き觀を呈するかもしれぬと生産地帯・交通運輸網・商業圏・聚落分布・人口密度等の要素は十分之を考慮した。それ等が地形區と一致する場合が多く、ただ其名稱が最も簡明に表現し得る地形名になり勝てある。地形區と一致せざるものは出來る限りの補正を加へた。棉花地帯・玉蜀黍地帯・何々工業地帯等の如き單元の名稱を附するには北米の如き大平野ありて地形的には變化なく氣候が各の地帯に適應して作物を特色づけるとか、英國のペンニン山麓の平野の炭田の如く廣く互りて工業地帯を認め得る場合の如きはかゝる單元を獨立せしめ得んも、我國の如く地形複雑なる所にては養蠶地帯・林檎地帯・蜜柑地帯・牧牛地帯の名稱にて相當の廣さの一單元をそれ丈にて認めることは純經濟地理的目的ならざる普通の綜合的單元の決定には至難のことに屬す。只極めて小地域に區分する場合に於て可能である。これ人文單元名の少い所以の一つである。

(一三)單に何々地方とあるは自然人文の景觀の内容の簡單に言ひ表はし得ない場合に多く使つて居る。前にあげた外國地誌にもこの地方名を同様の意味で用ゐて居る。或時は文化の程度を考へ表中國(山陽)・裏中國(山陰)・表四國(北四國)・裏四國(南四國)・表九州(北九州)・裏九州(南九州)の語を試み

たこともある。これは総合的人文本位の名稱の一例である。

(一四)方言の如き言語分布も参考資料なれど、材料缺乏につきこの決定にはあづからなかつた。

(一五)漸移地帯が多いので鋭き境界を定めることは困難である。相當な廣き地域でもその全地域そのものが漸移地帯の性質を持つて居るものもある。越後地方及關東越後國境山地は中部地方と奥羽地方、伊勢平野は近畿中央部と濃尾平野、豊後地方は瀬戸内と中九州との漸移地帯である。これ等はその稍重きに屬せしめて置いた。

(一六)地域の名稱は成る可く從來の地方名を用ひ、成る可く新な名を製造することを避けた。その爲め其の含む範圍が嚴密にいへば完全に一致しない部分が生ずるが止むを得ないことである。

(一七)主單元を更に副單元に分ち次第に細分したが圖上に示されざるものは文中に記入した。

(一八)第一圖に示す單元については面積の權衡を考慮して餘り小さき地域及飛地は成る可く他に含めることにした。但し次の單元表の括弧の中に示す最小級の單元はこの限りではない。

日本の地理區

日本を大別するに北日本と南日本、或は東北日本と西南日本の稱あり。又各々に外帶・内帶の別あり。別に裏日本・表日本・瀬戸内に別つことを得。東北地方の名稱と中部地方の名稱を認めてそれ以西を總稱して西南地方と呼ぶを得れば便なりと思ふ。中部は結合地域で、東北地方・西南地方は共に帶狀

日本の地理區

九

地理學評論

一〇

排列地域で相互に氣候並に文化に相違がある。

I 樺太島 A・B・C

(一)「樺太」東部山地 A (1)東部山地南部 A₁ (2)東部山地北部(東北山脈) A₂

(二)「樺太」中央低地 B (1)中央低地南部(鈴谷平野) B₁ (2)中央低地北部(幌内平野) B₂

(三)「樺太」西部山地(西樺太山脈) C 真岡本斗海岸は氣候比較的溫暖にて一地區をなす。

II 北海道本島 D・E・F

(一)北海道外帶(胴體部) D (1)北見海岸平野 D₁ (2)「北海道」東南低地 D₂ (十勝原野・釧路及根室平野)

(3)「北海道」中央山地 D₃ 「蝦夷山脈(日高山脈・天鹽山脈)・夕張山脈・千島火山帶・縦谷盆地列(富良野盆地・上川盆地・名寄盆地)天鹽西海岸・石狩炭田」火山帶を分離せず中央山地とす。盆地列は内陸性氣候帶で、上川盆地は夏期の高温に惠まれ米作地帯をなす。

(二)「北海道」中央低地(石狩平野) E

(三)「北海道」西部半島(内帶) F 奥羽地方と地質を同じくす。

III 千島列島

IV 奥羽地方(東北地方) G・H

縦列せる山地帯と低地帯の帶狀排列の顯著な地方にて水系亦様式あり。本州島の他の地方に比する